



加賀市長からのメッセージ 第013号 1月10日配信

2025年が始まりました。昨年は能登半島地震や奥能登豪雨といった大きな災害に見舞われ、非常に厳しい困難に直面した一年でありました。直接被災された方だけでなく、二次被害や家屋の損傷等、震災関連の被害に遭われた方が多くおられ、今も復旧・復興に向けての道を歩む最中にあります。市内もまだまだ震災等の爪痕が残るところがありますが、市民の皆様のご理解とご協力を得ながら、職員一同で復興に向け努めてまいります。

一方、明るいニュースもたくさんありました。そのうちのひとつが、北陸新幹線の加賀温泉駅開業です。開業後に加賀市を含む南加賀への誘客が伸びてきているというデータがあります。市内3温泉をはじめとした観光のさらなる盛り上がりや、地域のにぎわいを生む施策を今後も継続していきたいと考えています。

さて、加賀市は「人への投資」「地域への投資」「産業への投資」の3つを戦略の柱として推進してきました。これらを本年もさらにスピードを持って取り組んでまいります。

「人への投資」では、「子どもが主役」として「そろえる教育」から「伸ばす教育」への変革を進めており各地から教育関係者の視察が訪れ、全国的な評価が高まっています。子どもだけではなく、生涯にわたっての学びの継続も重要です。知識や技術力の向上を目的とした「リスキリング」も市として支援していきます。

「地域への投資」では「移動最適化都市」を目指して、AIの活用による乗合タクシーの利便性向上や民間企業との連携によるライドシェアを推進し、新たな移送手段で不便を解消していきます。また、加賀温泉駅周辺の整備事業を引き続き推進し、大型商業施設などの建設を進めます。

そして、北陸初の「国家戦略特区」を最大限に活用し、第三の柱である「産業への投資」に取り組んでまいります。昨年はドローンや次世代エアモビリティの可能性を追求するなど「空の産業集積」に向けてコンソーシアムをスタートさせました。日本マイクロソフト社など世界的な企業と包括連携協定を結び、人材育成や協業に向けた様々な取り組みも進めています。

本年は加賀市が合併20周年を迎える節目の年にあたります。次の10年、その先の10年を見据えた「夢と希望にあふれるまち」の実現に向けて、さらなる邁進を続けていきます。市民の皆様には日頃より市政にご理解とご協力をいただき心よりお礼申し上げます。

本年も皆様にとってご多幸の多い一年となりますよう、ここに祈念致します。

(令和7年1月10日号)

加賀市長 宮元 陸